

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32686

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K18492

研究課題名(和文)「聖典」・「経典」解釈における「先入観」についての分野横断的古典文学研究

研究課題名(英文) Cross-Sectoral Research on Classic Literature: Focusing on "Preconceived Ideas" Reflected in Interpreting the "Religious Scriptures"

研究代表者

長谷川 修一 (HASEGAWA, Shuichi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：70624609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通して、古典文学作品の中で「聖典」「経典」を扱う研究者が直面する「先入観」という問題意識を共有し、それがそれら古典文学作品の客観的な研究をどのように妨げてきたのかを明らかにすることができた。

また、そうした先入観からの脱却を目指す新たな文学研究の方法・理論について報告し、その有効性や限界の議論を通して、各メンバーが自らの研究の視野を広げ、研究を飛躍的に発展させることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

他分野の手法を積極的に取り入れる学際的研究によって、研究内容の専門化・細分化が進み、それぞれが「殻」に閉じこもって研究を行っている状況が続く古典文学研究を活性化し得る研究成果を得られた。

また、それぞれの研究に活かすことのできる横断的研究ネットワークを形成することにより、古典文学研究分野に漂う閉塞感を打開し、新たな学際的研究の可能性を拓くモデルを学界全体に提示することができた。

研究成果の概要(英文)：Through this research, we have shared the common problem of 'biases' in researching classical 'sacred books/scriptures' and have elucidated how they have prevented from objective research of such literary works.

Further, we have reported new literary methods and theories to break away from such biases, through discussions of the effectiveness and limits of which each research member could broaden one's own horizon and develop their research considerably.

研究分野：聖書学

キーワード：聖典 経典 古典文学 先入観

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「聖典」「経典」と見なされる古典文学作品には、作品の解釈・研究において、研究者の多くがそれら作品の「作者像」を前提条件としているという問題がある。さらに、一方の分野では、そうした「作者」の比定に疑義を呈すること自体がいまだに学界でタブー視される傾向にあり、他方の分野では、すでにそうした「伝統」に束縛される段階を脱したと見なされているという、分野間の「進化」の違いも存在する。作品を巡る「作者」と「読者」の関係を多視的にとらえ直す近代文学批評理論が広く知られるようになった現代に至ってもなお、そのような作者比定に基づく強固な「伝統」が、程度の差こそあれ、両分野に共通して存在している。

こうした「伝統」が、いまだに研究者の自由な読みを妨げ続けている原因は、主に「学問分野の閉鎖性」にあると考えられる。その「閉鎖性」ゆえに、ある分野において有効と認められている研究手法が、他の分野ではその存在すら知られていない、ということが想定される。したがって、古典文学研究諸分野間の壁を打ち破り、こうした閉鎖性を消滅させることができたならば、有効な研究手法に関する情報を古典文学研究分野間において共有することができる。そうすることで、「伝統」の束縛から脱却し、各分野における研究を促進させることが可能となる。こうした「学問分野の閉鎖性」を打破するためには、古典文学研究の学徒が分野間の垣根を越え、力を合わせて「伝統の力」に声を上げねばならない。こうした発想に基づき、それぞれ異なる地域の、異なる言語で書かれた古典文学作品を研究対象とする五名の研究者によって本研究を構築するに至った。

2. 研究の目的

文学研究において、研究者は可能な限り作品に対する主観を排除せねばならない。そのためには、作品解釈の論理的整合性を高めることが必須であるが、それとともに、読者の主観を生じさせやすい要素である「先入観」について熟知しておく必要がある。作者や作品の時代背景に対する先入観等、様々な先入観がテキストの客観的解釈を阻害し、読み誤らせる可能性があることに留意しなくてはならない。

特に解釈の長い伝統を有する古典文学作品の場合、その伝統が時として「先入観」となって研究者の読みを束縛し、視野を狭めることがある。そして、古典文学作品の中でも「聖典」「経典」として崇敬されているものには、解釈の長く強固な伝統ができあがっている。さらに、テキストそのものや筆者、登場人物、ときには注釈者までもが神聖視されているため、そうした「先入観」からの脱却は容易ではない。信教との関わり、「聖典」「経典」を「文学作品」として読むことに対する抵抗など、そのテキストごとに存在する様々な事情が障害として立ちはだかる。それゆえ、「聖典」「経典」に付随する「先入観」からの脱却は、地域・言語・宗教の別なく、それらを研究しようとする者にとって共通のテーマであると言える。

ところが、これまでこうした問題は、それぞれの地域・言語の古典文学研究分野において個別に認識されることはあっても、分野にまたがる共通の問題として意識されることはなかった。その要因は、研究分野間に横たわる見えない壁であろう。研究内容の専門化・細分化が進み、各言語で書かれた文学特有の問題に対する意識が先鋭化した結果、研究者は専門分野の狭い殻に閉じこもり、他の地域・言語の文学研究分野の方法や理論から学ぶ機会を逸してしまうのである。

ある地域・言語の文学研究分野で新たに誕生した方法や理論が、別の分野にも適用されるという例はこれまでもあったが、古典文学研究の分野では、そうした方法・理論の「伝播」に時間がかかる嫌いがある。地道な長期の訓練を要し、目に見える成果が短期的に得られにくい古典文学研究は、少数の研究者によって個別におこなわれることが多いため、視野狭窄的になりやすく、閉塞化しやすい傾向にあるということが原因だろう。

こうした現状に鑑み、本研究は古典文学作品の中でも特に「聖典」「経典」と見なされる文献を扱う研究者が直面する共通の問題、すなわち、解釈の伝統に由来する「先入観」に着目し、各研究分野の壁を越えて古典文学研究全体に通底するこの問題意識を共有することを目的とする。具体的には、旧約聖書学・新約聖書学・ハディース学・仏教学・中国古典学の各分野の「聖典」「経典」研究において、伝統的にどのような先入観が存在し、それが客観的な研究をどのように妨げてきたのかということをも明らかにするとともに、その情報を研究グループ内で共有する。そして、そうした先入観からの脱却を目指す新たな文学研究の方法・理論について報告しあい、その有効性や限界等を議論する。

3. 研究の方法

本研究は旧約聖書学・新約聖書学・ハディース学・仏教学・中国古典学の研究者によって組織され、以下に示すように、研究は大きく三つのプロセスに分けて進めた。

(1) 研究代表者及び分担者が、それぞれの分野で若手研究者や大学院生数人から成る小グループを立ち上げ、年間およそ2回、「『聖典』『経典』解釈に付随する『先入観』」をテーマとする研究会を開いた。

(2) 上述の各小グループ研究会で議論を深めた考察内容を持ち寄り、研究代表者・分担者全体での研究会を年に一回開催し、そこで情報や知見を共有した。

(3) 研究最終年度に旧約聖書学・新約聖書学・ハディース学・仏教学・中国古典学の全分野にまたがる公開シンポジウムを開催し、本研究の総括を行った。

4. 研究成果

最終年度に開催したシンポジウムでは、本研究の成果を広く一般・研究者に知らしめるとともに、異なる古典文学研究分野の研究者が顔を突き合わせて議論をすることができた。

他分野の手法を積極的に取り入れる学際的研究によって、研究内容の専門化・細分化が進み、それぞれが「殻」に閉じこもって研究を行っている状況が続く古典文学研究を活性化し得る研究成果を得られた。具体的には、旧約・新約聖書学と仏典研究において、古いテキストの再構成という分野で研究方法に共通性が見られること、その背景には共にこれらの研究が西欧において発展したことにあることがわかった。こうした共通点はハディース研究にもある程度見られるが、特に中国における中国古典文学研究ではほとんど見られないことが明らかとなった。こうした結果を今後それぞれの分野において還元することにより、古典文学研究全体が活性化できると考えられる。

また、それぞれの研究に活かすことのできる横断的研究ネットワークを形成することにより、古典文学研究分野に漂う閉塞感を打開し、新たな学際的研究の可能性を拓くモデルを学界全体に提示することができた。これは、各研究班が3年間で積み重ねた、若手研究者を交えたミニ研究会と、年に一度全体で集まった研究打ち合わせに依るところが大きい。若手の間で、自分の専門分野を超えた交流が始まり、やがてさらなる学際研究につながることを期待される。

こうしたプロセスを経て、古典研究における横のネットワークを構築し、分野横断的な交流を活発にすることができた。目に見える成果として、本シンポジウムの成果を学術雑誌に投稿する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Manabu Tsuji	4. 巻 -
2. 論文標題 1 Peter as a Pseudonymous Letter: On its Historical Background	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 William Loader, Boris Repschinski, Eric Wong (eds.), Matthew, Paul, and Others: Asian Perspectives on New Testament Themes	6. 最初と最後の頁 207-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 -
2. 論文標題 The Qualifications in Evaluations of the Kings of Israel and Judah in the Book of Kings	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Johannes Unsok Ro (ed.), Story and History: The Kings of Israel and Judah in Context	6. 最初と最後の頁 31-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shuichi Hasegawa	4. 巻 17
2. 論文標題 The Relationship between Archaeology and the Hebrew Bible	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal for the Study of Biblical Literature	6. 最初と最後の頁 127-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川修一	4. 巻 -
2. 論文標題 「古代イスラエル」 「一神教」的信仰前史を再考する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 柴田大輔・中町信孝編著『イスラームは特殊か 西味の宗教と政治の系譜』勁草書房	6. 最初と最後の頁 101-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢田尚子	4. 巻 下
2. 論文標題 賈誼「弔屈原賦」再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学中国古籍文化研究所編『中国古籍文化研究（稲畑耕一郎教授記念論集）』東方書店	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Teruaki Moriyama
2. 発表標題 From Khurasani Ashab al-Hadith to Mamluk Shafi'i School: Succession to the Classical Hadith Studies
3. 学会等名 Sixth Conference of the School of Mamluk Studies, Waseda University, Tokyo（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Manabu Tsuji
2. 発表標題 Suffering as a Christian: Christian Identity in the Early Christian Mission and 1 Peter
3. 学会等名 Studiorum Novi Testamenti Societas（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Between Biblical Research, Archaeology, and History: A Session in Honour of Nadav Na'aman for his Eightieth Birthday
3. 学会等名 Society of Biblical Literature, Annual Meeting（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Manabu Tsuji
2. 発表標題 1 Peter as a Pseudonymous Letter: On its Historical Background
3. 学会等名 The 4th Congress of APLC-SNTS (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shuichi Hasegawa
2. 発表標題 Did Joram Remove the Pillar of Baal (2 Kgs 3:2-3)?
3. 学会等名 Society of Biblical Literature International Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 The Importance of Textual Criticism of the Hebrew Bible
3. 学会等名 浙江大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 The Texts of the Old Testament
3. 学会等名 浙江大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 Textual Criticism and Literary Criticism
3. 学会等名 浙江大学（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長谷川修一
2. 発表標題 ヘブライ語聖書に反映する一神崇拜の展開
3. 学会等名 日本オリエント学会・同志社大学一神教学際研究センター主催公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Norihisa Baba
2. 発表標題 Serendipity in Ceylon: How Shaku Soen Learned and Changed Western Buddhist Studies
3. 学会等名 Conference of Birds as Ornithologists: Scholarship between Faith and Reason（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 矢田尚子
2. 発表標題 再読賈誼 甲屈原賦
3. 学会等名 屈原及楚辞学国際学術研討会暨中国屈原学会第十七届年会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻学
2. 発表標題 福音の継承? 第二パウロ書簡における 福音 理解
3. 学会等名 東北学院大学研究ブランディング事業シンポジウム「我は福音を恥とせず 新約聖書における<福音>理解」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 辻学
2. 発表標題 ルター聖書と活版印刷
3. 学会等名 宗教改革五百年記念展「ルター聖書と活版印刷」記念講演会(広島経済大学主催)(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 長谷川 修一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 238
3. 書名 謎解き 聖書物語	

1. 著者名 Shuichi Hasegawa, Christoph Levin and Karen Radner (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 400
3. 書名 The Last Days of the Kingdom of Israel	

1. 著者名 長谷川 修一、小澤 実編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 261
3. 書名 歴史学者と読む高校世界史 教科書記述の舞台裏	

1. 著者名 矢田尚子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 楚辞「離騷」を読む 悲劇の忠臣・屈原の人物像をめぐって	

1. 著者名 馬場 紀寿	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 256
3. 書名 初期仏教：ブッダの思想をたどる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢田 尚子 (YATA Naoko) (10451494)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	馬場 紀寿 (BABA Norihisa) (40431829)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	辻 学 (TSUJI Manabu) (50299046)	広島大学・総合科学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	森山 央朗 (MORIYAMA Teruaki) (60707165)	同志社大学・神学部・教授 (34310)	